



中に入るとほのかな黄金色の景色が周りをかこみ、すすきのおいがしてくる。さわさわという音が聞こえてくる。少しの涼しさが秋の訪れを伝える。



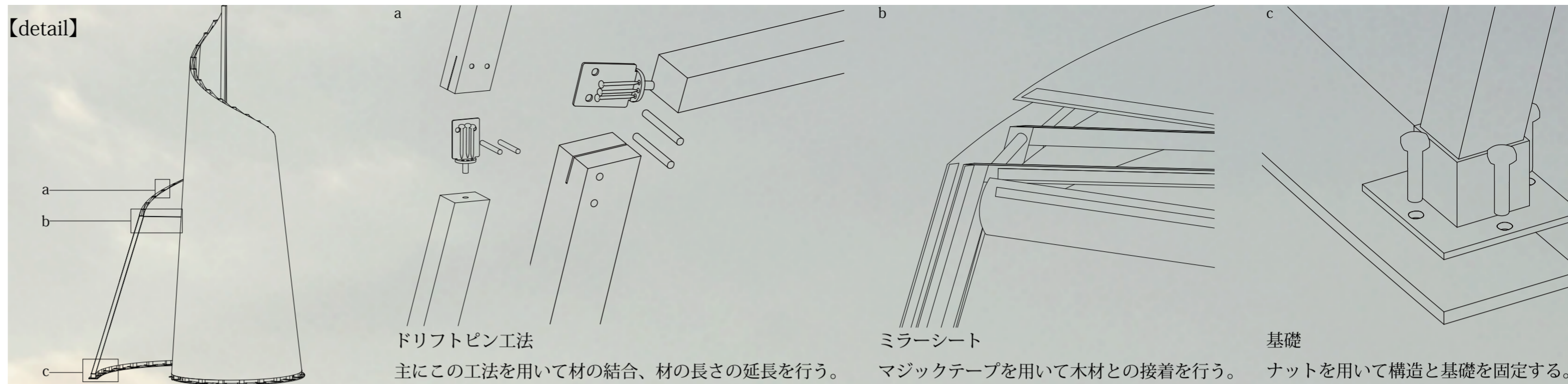
鳥のさえずりが、木の葉がこすれる音が、聞こえる。緑にぼうつと光る空間は真上から差し込む光と相まって森にいるという感じを感ぜさせる。



びんと張る冷たい空気が真上に向かって抜けていく。冬の静けさは空間の中でさらに強調される。真っ白の世界に置かれたこの建築は静かに景色に溶けてたたずむ。



真っ白の銀世界は直視するには強すぎる。間接的に見る柔らかな白い世界はこの建築と旅してこそ見えてくる世界。たしかに、しかしそっと景色を伝える。



**【material&structure】**

様々な場所に1人で運搬、設置、解体を可能にするような構造、材料を提案する。



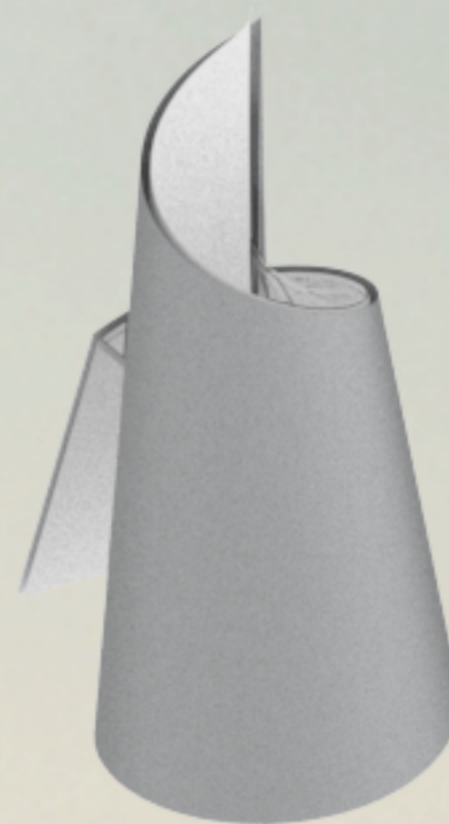
構造は軽く、頑丈な木材を用いて組む。その構造を自重の軽いミラーシートで覆う。ミラーシートと木材の接着はマジックテープを用いて行うことで設置、解体を可能にする。また、各木材の長さは1000mm~2000mmとすることで個人での運搬、設置、解体を可能にする。



木材同士の結合はドリフトピン工法を用いることで現場での設置を可能な限り容易にする。(detail a)

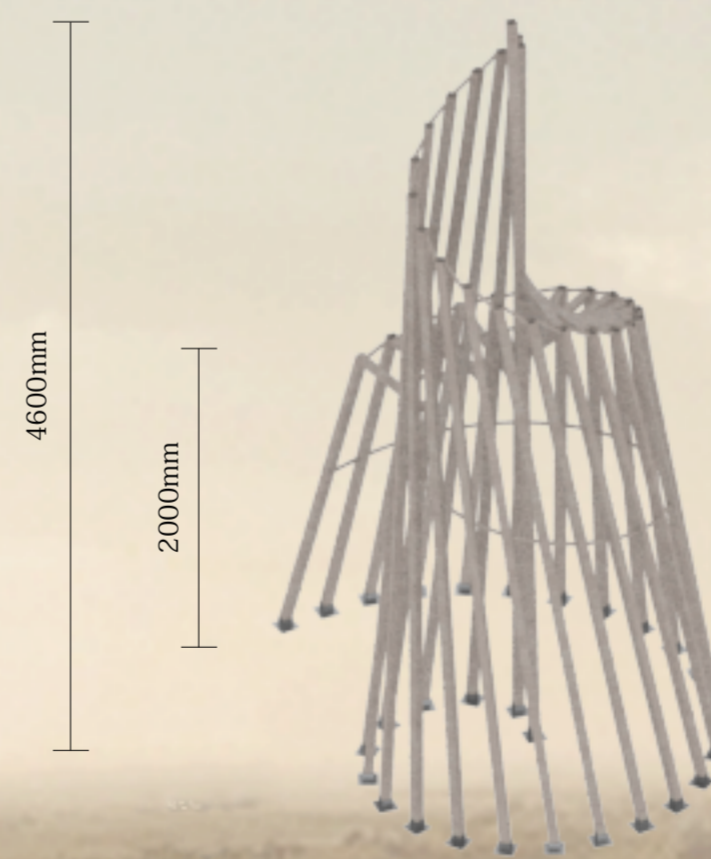


木材は中央の3本を除き、中央方向に倒れこむように荷重がかかるため、中央の3本を他の材より太くし、地面に対し垂直に立てることで構造として耐えうるようにする。また外側に開こうとする力も働くため、その力を抑えるために金属の基礎に構造を固定することでそれらの力に対応する。



skin—mirror sheet

メタリックミラーのカットシートを用いて、服のように構造体を覆う膜を作る。構造体にはマジックテープを用いて固定する。



structure—wood

木材を用いて構造体を組む。105mm × 105mm を基本とし、中央の3本は200mm × 200mm とすることで全体の構造を支える。



base—metal

金属の板を用いて構造体の外に開こうとする力に対応する。2600mm × 2200mm の正方形に収まる。